

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500033		
法人名	有限会社 UTASI		
事業所名	グループホーム九十九の里		
所在地	長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦802番地8		
自己評価作成日	平成 28年 1月 27日	評価結果市町村受理日	平成 28年 3月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JizyosyoCd=4291500033-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 28年 3月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念として掲げている「安心して暮らすということ」につなげて毎月消防避難訓練や災害避難訓練を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは地域で実施される様々な行事に積極的に参加され、運営推進会議のメンバーに地区長の参加があったり、社長が地区の会計を担当されたりと地域との交流を大切にされている。また、独自の「SOSネットワーク」を構築され、警察・役所・社会福祉協議会・近隣住民・他施設や協力店との繋がりを持たれている。ホーム内でのクリスマス会には近くの保育園児を受け入れて交流し、入居者と楽しく過ごされている。毎月消防避難訓練を実施し、火災通報装置に地域の方を3名登録するなど近隣の協力も得られており、入居者家族と職員が協力して担架を作り玄関に設置されるなど防災の意識も高い。「介護教室」をホーム内で行なう際に、職員がチラシを作り近隣へ配り呼びかけをされている。職員が気さくに対応され、入居者は家庭的な雰囲気の中で安心して暮らされている様子が窺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

グループホーム九十九の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が見える場所に提示し理念を共有して実践出来るように努力している	理念はホーム内の数か所に掲示しており、開設時社長と職員で話し合い「安心して暮らすこと」と「自分らしく生きる」事をモットーに覚えやすく、日頃より理念に添った工夫と話し合いを持ち、入居者が自分の家のように自由にゆっくり過ごせるよう支援されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事には出来る限り参加している。	自治会の公民館清掃や地域の祭りにも積極的に参加されている。また、社長が地区の会計をされていたり、地区長が運営推進会議のメンバーでもある。中学校や高校生の職場体験の受け入れもあり、高校生が卒業後当ホームへ就職された事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年介護教室を開催し地域の方に参加してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見サービス向上に活かしている	ホームの報告をし課題がでたら意見交換を行ったり持ち帰ってもらい次回の会議課題としている。運営推進委員さんの意見を聞きより良いサービスが出来るように努力している。	運営推進会議のメンバーには地区長や今年から包括に代わり市役所や家族・入居者やその日の勤務職員等が参加している。会議は入居者の見守りができるよう食堂で行なわれ、司会の管理者が1人ずつ順番に発言を促がす工夫をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き情報ももらったり介護教室の委託をされたりしている。	補助金についてや通報装置の事などのほか、包括へセンサーマットについても身体拘束にあたるかを尋ねた事もあった。事故報告は運営推進会議時にも報告され、市へも報告されている。災害時には「SOSネットワーク」を結成され、一覧表には警察・市役所・社会福祉協議会・地域住民等が記載され、掲示してあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関の施錠をおこなっている。ホーム内研修し身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束の基本方針はホーム内に掲示しており、ホーム内研修や外部研修にも参加し、振り返り研修や勉強会を行っている。声掛け時にはお互いスピーチロックがあった場合には注意し合い、入居者と信頼関係を築くように努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で言葉使いや声掛けトーンに気づいたらお互いに注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は介護教室で学ぶ機会があったが現在利用者に必要性がないため活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時時間をかけ十分に説明を行い同意してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へアンケートをだし意見を出してもらったり面会時要望を聞いている	意見箱はあるが、家族が訪問された際や利用料の支払い時に、直接、要望や意見を聞かれている。家族からは利用料金や食事代が安いが大丈夫かと反対に気をつかってもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やケース会議の際意見交換を行っている。	申し送り等、普段より話し合いをする機会をもっている。職員会議を欠席の職員は「ケース記録」にて確認を取られている。クリスマス会に保育園児を招待したり、社長が飼っている犬を連れて来られ入居者に喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給や希望休は取りやすくされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ研修機会を作って参加させてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括会議に参加したりグループホーム連絡協議会の研修会などを通し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や現状を把握し困っていることや不安なこと要望などを聞き入れ安心してホーム生活が送れるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に困っていることや不安なこと要望などを聞き入れている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に状況の聞き取りを行いサービス利用を視野に入れながら必要な支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす人として家事手伝いをしてもらったり趣味を生かして物づくりをしたりし共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などの時に現状を報告しケアプランに繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が行きたいといわれる場所には家族と話し合いし可能な限り出かけたり面会に来てもらい関係が途切れないように努めている。	地域には知り合いが多く、野菜をもらったり、散歩時には声を掛けてもらう事もある。法事や墓参りには家族が対応され、また、家族が食事に連れて行く事もある。知人より年賀状を貰う入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべく居間に出てきて利用者同士が関わり互いに支えあう生活をされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても必要に応じて出来る限りの相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で表情や会話などで希望などを見つけ本人の要望などになるべく沿えるように検討している。	職員を担当制にし、入居者の性格に応じてそれぞれ対応されている。日頃の入居者の表情や行動については、全職員で話し合い、より良い対応を検討されている。耳が遠い方には耳元で不愉快にならないような話し方で対応されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴等全スタッフがいつでも見れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活のなかで生活のパターン、気分の変化など現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録、申し送り等よりモニタリングを行い担当者、家族、本人、職員の意見を聞き介護計画を作成している。	家族や入居者から希望や要望を聞き取り、「ケース記録」「介護記録」を基に職員会議やケース会議・担当者会議にて検討し、ケアマネージャーが介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子を記入しスタッフ間で情報を共有しながら必要な支援が行えるように計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じるように出来る限り取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なるべく地域の活動、行事に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じるように出来る限り取り組んでいる。応じた医療支援を行っている。	入居者それぞれのかかりつけ医と電話番号・担当職員等を記載した表を作成し、ホーム内に掲示していつでも確認できる体制にある。基本的に担当職員が受診を支援され、受診前には家族へ連絡し、帰りには買い物やドライブを楽しまれる方もいる。家族対応時には食事をされてホームに戻って来る事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報をかかりつけの担当ナースに報告・相談し適切な受信や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時看護サマリー介護サマリーをもとに情報交換し早期に退院出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化し終末期になられた時の説明を十分にしている。	当ホームでは看取りについては実施しない方針であり、研修の予定もなく、入居時に看取りはしない旨の説明をされ同意を得られている。入居者の病状により医療機関への移動となる。AEDの設置はないが使い方の研修は受けられ周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時・応急手当など不安なことは年2回消防訓練を消防署より来てもらう時に指導してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回は消防署依頼で行いホーム内でも独自の訓練を行っている。	年2回の消防署立ち会い以外にも、毎月避難訓練を実施している。消火器の操作も周知しており、毛布を利用しての避難訓練も実施されている。担架を入居者家族が制作し、玄関に設置している。入居者情報一覧表が玄関に用意してあったが、個人情報の観点からひと目につかない工夫を口頭でお願いした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なるべく気を付けて話しているが馴れ合い(家族の一員)で時々強い言葉や大声になっている。	入室の際にはノックと声掛けをされているが、居室で過ごされるより居間で過ごされる方が多い。また、1人ひとりが自分らしく自由に過ごせるような支援をされている。声掛けの際には馴れ合いにならないように気を付けられている。	職員間では何でも言い合える間柄であるが、入居者への声掛けにおいてつい大声になったり、馴れ合いがちになる場合には職員間でお互い注意しあいながら取組んで欲しいと思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ会話し本人の希望を聞き自分らしさをだせるようにしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく希望にそった生活を行ってもらっているとのおもう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望されたら家族と相談して散髪し着たい服は自由に着てもらっている。外出時はできるだけ着替えをすすめている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの把握をしている。配膳、おしぼり巻、茶碗拭き等出来る方にはお手伝いを頼んでいる。	台所はIH対応であり、全職員が交代で食事を用意し、入居者と職員と一緒に食事を摂られている。入居者は配膳・下膳や茶碗拭きを手伝われている。また、食材の買い出しにも職員と一緒に行かれたり、誕生会の時には入居者が食べたい物を用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事形態や量の調節、夏は一人一人にボトルを準備し水分量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い見守りながら行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夏場や日中は布パンツにして時間を見声掛け誘導で失禁を減らしている。	排泄チェック表を基に声掛けをし、トイレへ誘導されている。排便を促す工夫として野菜中心の食事や体操を取り入れているが、医師の処方薬を用いる方もいる。また、排便の確認が必要な方にはポータブルトイレを使用される。通販でオムツやパットをまとめて箱買いし、家族の負担を減らす工夫もされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事、運動(腹部マッサージ)に気をつけているがひどい便秘の方は医師に相談し便秘薬をもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ジェットバスの利用で入浴の楽しみを持たれている。声掛けをしなるべく本人の希望に沿って入浴を楽しんでもらっている。	入浴は、冬は週に二回・夏は三回支援している。また、失禁時にはシャワー浴で対応されている。ジェットバスがあり長湯される方もいる。入浴剤や柚子湯の用意があり、入浴後は医師の処方の保湿剤を用意されている。冬場は脱衣所に暖房器の用意もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれる前に室内の温度調節を行っている。テレビを見ながら休みたい方は時間セットをしたり音楽を聴き休まれる方は自由に聞いて休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどんな薬を服用されているかどんな副作用があるかを通院報告書に説明書きを入れ把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来る仕事をしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族が無理でない限り一緒に過ごして頂いたり温かくなれば散歩、ドライブなど外出をうながしている。	行事がある時には家族へ案内を出され、毎回のように参加される家族もいる。近くのスーパーへの買い物支援や、日頃より外出を希望される方には職員と一緒に散歩等がされている。管理者が入居者の髪をカットし好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	文化祭や神社参りなどお金を持たせ使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話が来たり淋しい時にはこちらから電話したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所から居間が見渡され共用空間を広くし窓も開放的にしている。	季節毎の飾り付けや、ホームで発行される「つくもだより」を掲示されたり、玄関入口と居間には数台のソファを用意し、入居者は思い思いに座り、テレビを観たり寛いだり、お互い会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分たちで居間ソファに座るところを決めたり自由に食卓に居たり玄関前ソファにいたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身の回りの品の自由持ち込みで自宅からタンスや衣装ケースを持ってこられ使用されている。	ベッド・ロッカーは備え付けであり、入居者はテレビや家族の写真や好きな物を持ち込まれている。担当の職員が入居者の衣替えの手伝いをされている。毎日、その日の勤務者と入居者は一緒に掃除をされ、エアコンのフィルターは定期的に職員が掃除をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室生活の方もできること(洗濯物たみ・たんすへ出し入れ)はしてもらっている。移動などが無理になられたら能力に応じ家族の了解をとって変更している。		